

富山市定例市長記者会見（令和4年10月17日）

■冒頭

市長

皆さん、お疲れ様です。お忙しい中、定例記者会見にお集まりいただき、ありがとうございます。それでは早速始めさせていただきます。

■男女共同参画とやま市民フェスティバル2022について

市長

11月27日（日）に富山県教育文化会館で開催する「男女共同参画とやま市民フェスティバル2022」について説明いたします。

近年、働き方や子育て、介護など、さまざまな課題が顕在化しているなかで、性別に関わりなく互いにその人権を尊重し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現が強く求められています。家族一人ひとりが家事や育児、介護などに対して責任を持ち、家族ぐるみで参画していくことが大切であります。

今回は、ワークライフバランスと女性活躍について、フリーアナウンサーのかさいしんすけ笠井信輔氏を講師に迎え、「アナウンサーパパが伝えるワークライフバランスと女性活躍」をテーマとした講演会を開催いたします。

現在、広報とやま10月5日号やホームページを通じて参加者を募集しておりますので、このような機会にぜひ家族ぐるみで参加していただき、家事や育児等に対する意識を変えるきっかけにしていいただければと思っております。

なお、市内中学生から男女共同参画をテーマにした作文を募集したところ、（今年度は）366点の応募がありましたので、優秀作品の表彰式もあわせて実施することとしております。

■フレッシュオールスターゲーム 2023 の開催について

市長

つい先ほど、日本野球機構からも発表がありました。来年 7 月 18 日(火)に、富山市民球場を会場として、フレッシュオールスターゲーム 2023 が開催されることが決定いたしました。

9 月議会でもお答えしましたが、本市では、富山市民球場の老朽化に伴い、本年度のスコアボード、音響設備を皮切りに、計画的に大規模な改修を行うこととしております。そのリニューアルオープンにふさわしいビッグイベントとして、プロ野球オールスターゲームの誘致を目指しており、去る 5 月にトップセールスとして私自ら日本野球機構を訪問し、斉藤コミッショナーと面会してその熱意をお伝えさせていただきました。

その際、誘致に向けた運営ノウハウを蓄積するため、また、今年度末にはスコアボードもリニューアルすることから、来年度のフレッシュオールスターゲームの富山市民球場での開催について、コミッショナーにお願いさせていただいたところです。この度、来年開催されます「フレッシュオールスターゲーム 2023」の富山市民球場での開催が、正式に決定したものです。

このフレッシュオールスターゲームは、プロ野球ファームリーグ、いわゆる 2 軍のオールスターゲームであります。本市では、これまで、平成 10 年度と平成 23 年度の 2 回開催されており、今回が 3 回目の開催となります。

ファームリーグとはいえ、次代を担う有望で有名な若手選手が多く出場する、まさに若手選手の夢の球宴であり、また、プロ野球選手のプレーを間近に見て、その迫力やスピードを感じられる貴重な機会でありますので、このフレッシュオールスターゲームが本市で開催されることは、本市のスポーツ振興という意味からも、大変大きな効果があると思っています。その先にある、オールスターゲーム誘致に向けて一歩前進したと考えております。

今後につきましては、より多くの方に球場に足を運んでいただけるよう、また、開催に向けた機運を盛り上げるよう、開催に向けて広報やPR活動をはじめとした取り組みを進めていきたいと考えております。

■景観まちづくりフォーラムの開催について

市長

現在、本市では、市民と協働で景観まちづくりを推進させるためのマスタープランとなる「景観まちづくり計画」を改定しているところであり、主な改定点の一つとして、市民・事業者との連携強化を挙げています。

このことから、「もっと富山を好きになる。」をテーマに、都市デザインを専門とする本市の政策参与や、富山の魅力を発信する活動を行うANA客室乗務員とともに、富山の魅力を再発見し、景観まちづくりへの意識の高揚を図ることを目的に、景観まちづくりフォーラムを11月13日に開催します。

当日は、都市デザインを専門とし、平成24年より本市の政策参与に就任していただいている、横浜市立大学客員教授の^{くによしなのおゆき}国吉直行さんに「富山市各地の個性を生かした景観演出とまちの元気づくり」と題してご講演をいただきます。国吉政策参与は、横浜赤レンガ倉庫の再生や、みなとみらい地区の開発など、横浜市で50年以上にわたって都市デザインを担当されたという豊富なご経験をお持ちです。当日は横浜市でのまちづくりのご経験や、世界各地のまちづくりを支援されてきた幅広い視点から、本市の景観づくりや、景観形成を通したまちの活性化についてご講演いただきます。

また、講演後には、「私の好きなどやまの景観」をテーマにしたパネルディスカッションを行います。国吉政策参与、富山市地域づくりマネージャーの^{はまぐちさえ}濱口紗瑛さんと私の3名で行う予定にしております。

濱口さんは、ANA客室乗務員として国内外の路線に数多く搭乗されていらっしやいましたが、昨年度より本市の地域づくりマネージャーに就任

いただいております。これまで多くのまちをご覧になった経験から、本市のまちの魅力を、歴史文化や食文化など、さまざまな面からお話いただく予定としており、私もパネリストのみなさんとともに、富山市の魅力についてじっくりと語り合いたいと思っています。

現在、参加希望の申し込みを受け付けており、申込期限は11月4日までです。入場無料で、定員は100名としており、応募者多数の場合は抽選により参加者を決定します。詳しい内容は、景観政策課のホームページや地区センター等に設置してあるチラシをご覧ください。

景観やまちづくりに対して一人でも多くの市民の方々に関心を高めていただくために、今後もさまざまな機会を捉えて、情報発信などに努めてまいりたいと考えております。

■ 欧州連合国際都市地域間協力プロジェクトについて

市長

富山市では、EUの行政執行機関である欧州委員会地域・都市政策総局と国土交通省都市局による、欧州連合国際都市地域間協力プロジェクト事業に昨年9月に選定され、スペイン王国のサン・セバスティアン市とルーゴ市とペアを組み、都市の諸課題に対する連携協力を通して、新しい知識の獲得や、交流による国際間連携の構築と強化、相互訪問による情報や知見の獲得を目指しております。

この都市間連携においては、国際連合やG7、G20など国際的な会合においても議論がなされ、その重要性がますます高まっております。

本市では昨年の採択を受け、これまでWEB会議を通して都市の政策課題や都市計画、持続可能な交通など連携内容を議論してきたところであり、今年度は相互の都市を訪問することにしました。

まずは、サン・セバスティアン市から、10月25日から27日までの3日間、職員2名、国際都市地域間協力日本チームリーダーを受け入れ、本市が推進するコンパクトシティ政策や、脱炭素に向けた取組について施策を紹介するほか、現地視察を行います。

なお、ルーゴ市からの受け入れについては年内を予定しており、現在調整中であります。

次に、私を含め5名の職員が、11月19日から27日までの9日間の日程でスペインを訪問することにしております。

主な活動内容について、現在の予定といたしましては、サン・セバスティアン市のエネコ・ゴイア・サンティアゴ市長を表敬訪問し、持続可能なまちづくりについて今後両市が連携して取り組んでいくため、協力協定を締結するほか、ICTを活用した交通データ管理システムや、クレジットカードによる非接触式タッチ決済乗車システム、電動公共都市バスなど、先進的な交通施策について視察いたします。

また、スマートシティにおいて先進的な取組を実施しているバルセロナ市を訪問し、スマート技術により輸送サービスを提供するバルセロナ交通局と意見交換をするほか、交通事故の増加や排気ガスや騒音などの環境汚染と健康被害への対策として、街の一部で自動車の乗り入れを制限し、歩行者と自転車中心の空間とするスーパーブロック・プロジェクトの実施地域などを視察いたします。

そして、マドリード市はトランジットで立ち寄ることになりますが、在スペイン日本国大使を表敬訪問するほか、入国規制の緩和や円安傾向により、今後ますますインバウンドが増えることが予想されることから、日本政府観光局マドリード事務局長と、本市のインバウンドに向けたプロモーションについてトップセールスし、意見交換を行うこととしております。

今回、本事業の採択により、スペインのさまざまな関係者を訪問するなど大変貴重な機会を頂いたものと考えております。今後、各都市と知見の共有を行うなど都市間連携を推進するとともに、先進的な事例については本市の施策に反映することで、コンパクトなまちづくりを深化させ、幸せ日本一とやまの実現につなげてまいりたいと考えております。

■市営大山及び山田コミュニティバスにおける市営コミバスウェブ予約システムの導入について

市長

市営大山及び山田コミュニティバスのデマンド運行を行っている路線において、これまでの電話予約に加え、市営コミバスウェブ予約システムを導入し、利用者の増加や利便性の向上を検証する社会実験を令和4年11月1日から令和5年1月31日まで実施いたします。

このウェブ予約システムの導入により、利用者はパソコンやスマートフォンから専用サイトにアクセスし、24時間予約が可能となります。

今回、導入する路線は、大山コミュニティバスにおける小坂線、才覚線、くるみがはら 榎ヶ原線、にしこまたじゅんかん 西小俣循環線、おぎなみ 小佐波線のデマンド運行区間と、山田コミュニティバスにおけるしょうず 清水線、谷・牛岳温泉スキー場線のデマンド運行区間です。

まず、大山コミュニティバスの予約方法につきましては、電話での予約受付時間である平日8時30分から17時15分以外の時間帯は、留守番電話へメッセージを残すことで、予約を可能としておりますが、今回導入するウェブ予約システムでは、ウェブ画面上で予約状況が確認できるようになるため、予約完了の確認ができないために感じる不安を解消できるものと考えております。また、17時15分以降の夜間でも、当日乗車の1時間前までは、ウェブでの予約を受け付けることができるので利便性の向上が図れるものと考えております。

次に、山田コミュニティバスの予約方法につきましては、これまで予約受付時間である平日8時30分から17時15分以外の時間帯は予約することができませんでしたが、夜間でも予約を可能とすることで利便性の向上が図れるものと考えております。

なお、現在「将来を見据えたコミュニティバスのあり方検討業務」において、AIオンデマンド導入について調査・研究しておりますが、ウェブ予約システムを導入することで、AIオンデマンドを導入した際には、市営コミュニティバスなどの配車計画の作成が容易になるものと考えております。

本市としましては、より多くの方々が公共交通を快適に利用して移動す

ることができるよう、利便性の向上を図り、誰もが暮らしやすさを実感できる都市の実現に努めてまいりたいと考えております。

■ トランジットモール社会実験等の開催について

市長

中心市街地の賑わいの創出、公共交通の利用促進、既存店舗や街路景観の魅力の発信を目的に、大手モールにおきまして、市内電車と歩行者のみが通行できる、今年度3回目の「トランジットモール社会実験」を11月6日に開催します。

今回は、通常よりも長い富山国際会議場前から平和通りまでの約290メートルを会場に設定し、越中大手市場と連携した50以上の飲食、雑貨などのブース出店や防災体験などのイベントなどが行われます。

併せまして、市内産農林水産物の魅力発信と需要喚起を図ることを目的に、富山駅南北自由通路・北口駅前広場におきまして、「市内産農林水産物を、買って、食べて、楽しんで、応援しよう！」をテーマに、旬の野菜・果物の直売、地場産食材を使用したテイクアウトグルメの販売などを行う「農林水産物ワンデージャックフェスタ」を開催します。なお、商品を購入された方を対象に、市内5蔵の日本酒ミニボトルをプレゼントすることとしております。

また、公共交通利用者の減少により収益が悪化し公共交通事業者支援と、花きの消費拡大を目的に、富山駅、グランドプラザ、大手モールの各会場に花束等の販売ブースを設置し、花束等を500円以上購入した方には、路面電車1日乗車券をプレゼントすることとしております。

さらに、関連事業といたしまして、富山青年会議所や民間企業の方々が中心となって組織されましたまちめぐりとやま実行委員会が、民間主導によるまちなかの賑わい創出を目的に、10月31日から11月6日の期間におきまして、「まちめぐりとやま2022」を開催されると伺っております。

当日は、北は富岩運河環水公園から南は富山キラリまで、整備されたさまざまな都市インフラを有効活用し、民と官が連携して、まちなかの賑わ

いづくりに取り組むこととしております。市民の皆様には、まち歩きを楽しく体験していただくとともに、市のまちづくりの成果を実感していただきたいと考えております。

今回のイベントが、官民一体となった新たなまちづくりの契機となるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響をも跳ね返す、地域経済活性化の起爆剤になれば幸いであると考えております。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

県内の新型コロナウイルスの感染状況については、全国と同様に感染者、入院者ともに減少傾向となっております。

しかしながら、今年の冬は、インフルエンザが流行する可能性が非常に高いとされており、新型コロナウイルス感染症との同時流行が大変危惧されております。

新型コロナウイルス感染症の予防として実践されております「こまめな手洗い」「正しいマスクの着用」「人と人との距離の確保」など、感染予防対策は、インフルエンザ予防にも有効でありますので、市民の皆様には、引き続き、基本的な感染予防対策を心がけていただき、「うつさない」、「うつらない」ための行動の徹底をお願いいたします。

また、インフルエンザ予防接種については、今月から、65歳以上の高齢者の方に対しまして、接種費用の助成を開始しております。来月1日から、小中学生に対しても助成を開始することとしております。

今年からは、新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種が可能となっておりますので、積極的な接種をお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。10月16日現在で、3回目接種を受けられた方は、280,980人であ

り、全人口に対する接種率は 67.9%、4 回目接種を受けられた方は、131,262 人であり、率にして 31.7%となっております。

また、オミクロン株対応ワクチンにつきましては、9,101 人の方が接種を受けられております。

さて、オミクロン株対応ワクチンにつきましては、現在は B A. 1 株に対応したワクチンを使用して接種を進めておりますが、10 月 5 日に B A. 4、B A. 5 株に対応したファイザー社製ワクチンが薬事承認されたところであります。

本市では 10 月 26 日以降、準備が整った医療機関から順次 B A. 4、B A. 5 株対応ワクチンの接種が可能となりますが、B A. 1 株対応ワクチンにも B A. 5 株に対する効果があるとされておりますので、接種券をお持ちの方は、その時点で打てる方のワクチンを接種いただきたいと思います。

また、今後、オミクロン株対応ワクチンが接種可能となる間隔が、前回接種から 5 カ月だったところが 3 カ月に短縮されることが見込まれております。

接種間隔の短縮により、2 回以上の接種を終えたほとんどの方が年内にオミクロン株対応ワクチンを接種することができますので、年末年始に懸念されている感染拡大に備えるためにも、接種可能な時期が来ましたら、早めの接種をお願いしたいと思います。

次に、6 カ月から 4 歳の乳幼児への接種についてであります。10 月 5 日にファイザー社製の乳幼児用ワクチンが薬事承認されました。

本市におきましては、速やかに乳幼児への接種を始められるよう、準備を進めているところであります。日程などの詳細が決まりましたらご案内したいと思います。

私からは、以上です。

■ 質疑応答

記者

10月から市内の中山間地域で、スマホ買物支援事業とシビックテック事業がスタートしました。市長が重要公約に掲げておられるスマートシティ戦略の一つですが、この2つの事業に期待する効果を改めてお聞かせください。

また就任後からスマートシティ戦略を推し進められてきた中で、見えてきた課題やさらに重点を置いて取り組みたい分野などがあればお聞かせください。

市長

今ほどご紹介のありました2つの事業は、本市の郊外部、とりわけ中山間地域にお住まいの方に、普段の生活の中での困りごとや、不便さなどを少しでも解決していただくため、今年度、市が試験的に始めるものです。

まず、スマホ買物支援事業は、山田地域や細入地域など中山間地域にお住まいの方、その中でも自動車の運転免許証を返納された方、自家用車を運転されない高齢の方などに、ご自宅のパソコンや携帯電話、スマートフォンから、インターネットでスーパーの商品を注文し、その商品を宅配してもらう、いわゆる「ネットスーパー」サービスを利用していただけよう、地域の公民館等に専門の支援員を派遣し、住民の方が利用申込をする際の手続きなどについてお手伝いする事業であります。

もう一つのシビックテック事業は、デジタル技術に関する高度な知見を有する人材を県外から募集し、実際に地域での生活を自らも体験しながら、地域住民の方と一緒に地域が抱える課題などを検証し、デジタル技術の活用による解決策などを検討する事業であります。今年度は、この事業への参加希望があった大山地域の小見地区を対象地域として、アイデアソンやハッカソンと呼ばれる手法を用いながら、住民参加によるさまざまなイベントを実施していくこととしております。

アイデアソンとは、地域課題解決のためにアイデアを出して、それをICTやAIの力を使ってどのように解決していけばいいのかというプランニングのことです。

ハッカソンとは、そのプランニングを実際にアプリケーションを作成しながら、実際に使えるようなものに実装させていく、実証実験ができるよ

うな段階まで高めていくというようなものです。このようなものに落とし込んで、地域課題を解決していきたいということです。

これらの事業に期待する効果につきましては、これらの事業を通して、地域の課題というのはさまざまで一気に解決するものでもありませんが、ICT技術を駆使することで、少なくともその問題を解決する糸口、あるいはなぜ解決できなかったかという問題点など、全体としての課題を解決する糸口にはなると考えています。

次に、スマートシティ戦略を推進する中で見えてきた課題や重点的に取り組みたい分野という点についてです。ご案内のとおり、富山市では、本市が目指すスマートシティ政策の基本理念や方向性などを皆さんにお示しする「(仮称)富山市スマートシティ推進ビジョン」を作成するため、(ビジョンの素案について)パブリックコメントを実施している段階にあります。

この素案では、これまでに開催した市民ワークショップで出されたご意見などを踏まえ、本市がスマートシティ政策に取り組む上での重点領域として、「どこでも必要なモノ・コト・情報を入手できる」「地域ぐるみで子育てがサポートされている」「未来への学びと対話の機会がある」の3項目を掲げたところであり、今年度中にはビジョンを決定し、来年度以降、このビジョンに基づき、具体の取組を全庁的に推進していく過程において、さまざまな課題なども実際に明らかになってくるものと思っております。

いずれにいたしましても、市ではスマートシティ政策をコンパクトシティ政策と並ぶ本市の基本政策に位置づけ、両方の政策を同時に推進することによって、市内のどこに住んでいても、誰もが安全で安心して暮らすことのできる「幸せ日本一とやま」の実現を図ってまいりたいと考えております

記者

フレッシュオールスターゲームについて、オールスターゲームの開催に向けて一つ前進したという話がありました。9月議会の答弁では全体的な機運の醸成が必要だという言葉もありましたが、今回のフレッシュオールスターゲームが機運を醸成する一つのきっかけになると思いますが、改めて市長の考え方を伺います。

市長

先ほども申し上げましたが、フレッシュオールスターゲームですから、有名な若手選手がたくさん出場するわけです。PRは、市の広報やSNSの発信、ホームページなど、さまざまな手法を使って発信していかなければならないと思っています。

それともう一つは、野球関係者のみならず、スポーツ関係者の皆さん、スポーツを観戦することが好きな人、あるいはそうではない皆さんにも、夢のある事業だということをしっかりお伝えしたいと思います。

これはまだこれから先の話なんですけど、私だけの思いとしては、例えば、少年野球、野球をやってらっしゃる児童、青少年の皆さんを球場にお招きするといったことによって、その保護者の皆さんや指導者の皆さんも含めて、スポーツ関係者の皆さんにも足を運んでいただくということにも繋がる^{つな}と思いますし、これからプロ野球の一軍でスターを目指していく、そういう若者が本気でプレーするわけですから、それは青少年のみならず、我々大人や年配の方々にも十分伝わってくると思いますので、そういう意味でもしっかりと広報していきたいと思っています。

記者

欧州連合国際都市地域間協力プロジェクトについて、実際にスペイン、バルセロナなどに行かれるということですが、今回の視察にあたって、何かしら問題意識があると思いますが、その問題意識を改めてお伺いします。また、得られた知見をどのように市の施策に反映していこうとお考えですか。

市長

いくつかありますが、大きなものとして環境、交通、それと観光です。

今挙げましたルーゴ市やサン・セバスティアン市は、非常に風光明媚^{めいび}で世界的に知られた観光地であります。また、サン・セバスティアン市は特にそうですが、ICTがものすごく発展しています。地域の交通面や政策面で（ICTが発展しています）。また、それを使用する住民の皆さんの意識も高いです。日本は先進国ではあるけどICTは少し遅れているのではないかというようなこともよく聞くわけですが、ICTをもちろん観光にも繋^{つな}がけていますし、市民の生活にも繋^{つな}がけているわけですので、そういうものへの活用の実用例（を参考にしたい）です。

あとは、向こうはトラムも有名です。ヨーロッパのまちはそうなんですが、前市長も、地方の都市がウォークアブルで持続可能なものになるように、そのような（ヨーロッパの）姿を参考になさったということも聞いています。そのトラムも常に進化し続けているということも聞いております。それもバルセロナにおいては、市内のバスも含めて、公共交通を一元管理するシステムがあったり、どこの都市であったかろう覚えですが、ごみの収集システムなどにもICTを活用して非常に進んでいるということを知ります。富山市は、環境やごみの収集やリサイクルに力を入れていますが、住民の皆さんからは、収集の時間がバラバラであるとか、遅れるといった苦情も聞くわけですね。その収集システムもICTを利活用してやっていると（ということなので）、そのことをしっかり学んでいきたいということですね。また、それ（ICTを活用したシステム）を使用したり、受け入れる市民の皆さんのマインドがしっかりと醸成されているということですね。皆さんが自然に（ICTを活用したシステムを）利用していくと。それは年配の方でも子供でも一緒なんですね。だからそのようなマインドセットというものをどのようにPRしておられるのかということも（学んでいきたいことの一つ）であります。PR方法ですね。

あともう一つはやはりコロナ（の状況です）。日本はまだコロナ禍で、第8波も懸念されていますが、ヨーロッパはかなり通常に戻ってきていると聞いています。観光やビジネスにおける外国人の受け入れや、人々の生活がどのようになっているのか、元どおりになっているのかも含めて視察したいと思っています。

記者

県の開示資料によると、市長はピースロード 2021 と 2022 の実行委員会の実行委員に名を連ねていらっしゃるようですが、これはどういった経緯で入られたのでしょうか。

市長

ピースロードの実行委員会に名前を連ねた経緯は、今のところ把握しておりません。

記者

実行委員会の名簿が後援（名義の使用承認）申請の際に利用されていることをどのようにお考えですか。

市長

事実関係をしっかり確認させていただきたいと思います。

記者

過去の後援申請について見直し、検討ということでしたが、その結論は出たのでしょうか。

市長

結論が出次第、報告させていただきたいと思います。

=====

記者

先日行われた若手職員とのクロストークについてお伺いします。第 1 回が開催されて市長の感想をお聞かせください。また、今後、年 4 回開催されるということですが、改めて今後の期待を教えてください。

市長

最初に感想から言いますと、職員からは非常に活発な意見が出ました。まず一つは自分が現在やっている仕事に対しての夢や希望、問題点、悩みなど、生の声を聞くことができ非常に良かったと思っています。もう一つは、企画管理部長が隣で見学していらっしゃるもので、なかなか

か言いにくいかなと思って私も心配していたんですが、市役所は隣の課が何をやっているかわからないとか、隣の係は何をやっているかわからない、風通しがあまり良くないといった声もありましたし、これは全部がそうではありませんし、その上司にもよると思いますが、上司に対して部下が相談しにくい雰囲気があるという（意見がありました）。日頃から富山市全体で取り組んでいることですが、あいさつ運動や悩みがあったら上司に相談しましょうなど、常にこのような運動をしていますので、このようなことを含めて、風通しがより良くなるようにみんなで努力していきたいと思いました。

それぞれの趣味や休みの日に何をやっているのかなど、多彩な面も披露していただき、非常に楽しかったと思います。

もともとは、私が市長に就任して、毎月、カレーライスミーティング（というように）、何か昼食を食べながら、5人、10人ぐらいで、若手職員と話をしたいという話をずっとしておりました。今はこのような（コロナ禍の）状況ですからなかなかできないのですが、かといって、時間ばかり経っていきますので、今回のようなクロストークという形になったわけでありませ

そのうち、もう少しコロナも沈静化してくれば、カレーライスミーティングのように、もう少し和気あいあいと行いたいと思っています。

記者

欧州連合国際都市地域間協力プロジェクトについて、連携する2都市は国が選定した2都市ということでしょうか。

活力都市創造部長

この事業は、欧州連合と国土交通省の連携事業で、その参加都市の募集があったときに富山市が応募して、日本国側でいくつかの市が選ばれております。EU側でもいくつかの都市が選ばれており、欧州連合と国土交通省の間で、どの都市とどの都市をマッチングするかということを決められ、その中で、富山市とサン・セバスティアン市と（ペアになったと）いうことです。

記者

市長就任後初めての海外視察ですが、楽しみにされていることなどがあればお聞かせください。

市長

しっかり勉強したいと思っておりますが、ヨーロッパは歴史的に見ても、まちづくり、都市計画という面でも非常に歴史がありますし、それぞれの地域性や文化、国民性を大切にするという伝統がありますので、そのようなものをしっかり見てきたいと思っております。加えて、私が想像していた以上に、非常にICTが進んでいるんですね。そのようなことをしっかり見てきたい、そういうことを楽しみにしたいと思っております。

=====

記者

県は、護国神社の秋季例大祭に県職員の公務での出席を今年から取り止めました。これに関して市長の率直な感想や思いをお聞かせください。

市長

私がコメントすることではないと思っておりますが、県は県として、昨今の旧統一教会の件もありましたので、そのあたりはお気遣いされて、そのようにされたのではないかと推測いたします。

記者

市長もその場に私人として出席されていましたが、今後の出席についてどのようにお考えでしょうか。

市長

私人として出席させていただきました。

この日本、富山県、富山市が今日あるのは、やはり戦争で亡くなられた英霊のご功績でありますので、その魂にしっかり手を合わせて、ありがとうございましたと感謝するのは日本人として当然だというように、私人として思っておりますので、これからもしっかり手を合わせて感謝を申し上げたいと思っております。

記者

宗教的な行事への職員派遣について、富山市として今後の対応についてどのようにお考えでしょうか。

市長

その内容にもよると思いますが、考えてみたいと思います。

記者

オミクロン株対応ワクチンについて伺います。10月26日からB A. 4、B A. 5株対応のワクチン接種が可能になるということですが、選択はできるとは思いますが、当面はB A. 1株対応のワクチンの接種を呼びかけていくということでしょうか。

市長

選択肢は受けられる方にありますので、オミクロン株対応のワクチンを接種できますというように、現在もお知らせはしていますが、今後も同様に広報をしていきたいと思っています。

記者

これは全国的なことですが、B A. 5株対応ワクチンの方に人気が集まるのではないかとということがあります。B A. 1株対応ワクチンの廃棄に繋^{つな}がってしまうのではないかとという懸念もあると思いますが、それに関して、どのようなメッセージを出していきたいとお考えでしょうか。

市長

B A. 5株にB A. 1株対応のワクチンでも効果は認められると伺っていますので、そのようなしっかりした治験もあるということも併せてPRしたいと思っています。

記者

他の自治体では、集団接種会場ではB A. 1株対応ワクチンを接種する

とし、B A. 1 株対応ワクチンの接種を促している自治体もありますが、富山市は集団接種会場ではどのように対応されるのでしょうか。

保健所地域健康課長

集団接種会場につきましては、現在、モデルナワクチン（B A. 1 株対応ワクチン）を使用しており、申し込みもモデルナワクチンでの申請となっております。その関係で、10 月中につきましては、B A. 1 株対応ワクチンであるモデルナワクチンの使用を予定しております。

11 月枠につきましてはこれからになりますが、それについては、B A. 5 株対応ワクチンも含めて検討してまいりたいと考えております。

記者

来年のG7 教育大臣会合について伺います。県の方でも推進チームが発足しましたが、富山市の今の検討状況や何か決まったことがあればお聞かせください。

市長

日程についてはまだはっきり聞いていませんが、概ね来年5月のゴールデンウィーク明けではないかということです。職員7名をその推進チームと（しました）。前回の（記者会見で）報告したとおりです。そのうち2人は出向ということで、1人は（富山）県、1人は文部科学省に（出向になります）。文部科学省の方は（今月）11日に、すでに行っております。そのような形で推進したいと思っています。

近々、両県知事、両開催市長が、まずはチームワーク良くやらないといけないということで、私もお会いしたいと思っていますので、その調整を今から図っていきたいと思っています。県の方で調整されると思いますが、お願いしているところです。

記者

その4者会合は、いつ頃（開催されるの）でしょうか。年内でしょうか。

市長

もう少し早い時期ですね、今月末か（来）月初め（頃を考えています）。
なるべく早くお願いしたいと伝えてあります。



※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課